

# 琉球大学学術リポジトリ

## 愛林週間

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲田, 元一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/19548">http://hdl.handle.net/20.500.12000/19548</a>



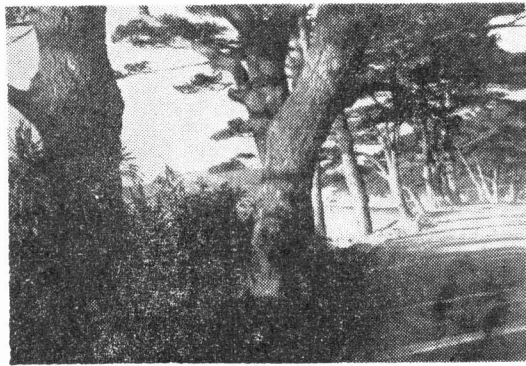
## 愛林週間

林業思想の普及、国土緑化の実践方法として愛林日設定の運動が大日本山林会に依り昭和六、七年頃より唱えられて居りましたが、昭和九年四月一日、三日を愛林日として、全国民運動に展開され、昭和十二年より四月四日と定められ今日に及んで居ります。日本は御存知の様に南から北に細長い為、四月四日が適当な時期で無い処は幾分ずらして行つて居る様であります。我が沖繩に於いても戦争に依る緑地、森林の喪失を補い、一日でも早く郷土を緑化させ様と云う主旨の基に（沖繩に於ける植栽の適期でもあり、而も農家のあまり忙しくない時）二月中旬から下旬に掛けて此の国民運動が始まりましたが、今年で第六回を迎えるのであります。

そこで農家の皆様が旧正月の香りを待つて居られる時に面白い、愉快な夢を見ようではありませんか。

昔からある緑地、それにはその緑地それぞれに楽しい物語り悲しい物語り、が語られてはいませんか、部落の小さな御拜所にもそれぞれの美しさと生活の歴史に、その土地の人々は懐しさを覚えるとともに、三昧線で一冊朗じたくなる様な、人の世を想うよきがあるつてはいませんか。

動物や自己の足が唯一の交通機関であつた時代に、旅人は一寸した樹蔭、並木道、或は御拜所等でもよも木を繁らせてくれたと感謝した事でしょう。また次の樹蔭をどんなにか元氣を蓄けたら事が目に見える様です。



処が戦前所々に有つた此の樹蔭は沖繩本島北部の一部を残して皆無と云つて良い位に樹蔭らしい樹蔭が無くなりました。それに伴つて我々の世界が明治、大正、昭和との縁を切られた様な思いが致します。一本々々の木、一本々々の枝振り、全体の並木、森、思い出を導き出してくれる何物も無いのです。先輩を思い出すすべ、逸話、思案に繋る泉が………之等は私等の刺戟ともなり、また慰めともなり、想い出ともなつて、私達の生活にどれだけの豊かさを与えてくれたかは計り知れないものがあります。

そこで皆様の子供達の学校の校庭、或は学校に付き来する道にそれぞれその土地、学校、或は部落を表はす様な特徴のある樹蔭を持つのは楽しい事です。生徒が思想を生み、詩を作り、

想い出を生む事でしょう。学校が計画されれば客外実施はわけないのであります。父兄の方や、卒業生、または若入生の協力を求めて、何年でもかゝつてやる事です。かえつて何年でもかゝる処に学校に対する想い出が多くなり楽しくなるのではないのでしょうか。

部落々々で、相當の道幅の処では道に、各々が自分の家の前に、宅地に、一本の樹を植えるなら、それが五六年遅くとも廿年後には、それぞれ特徴のある道（面白い並木）になり、三、四十年では立派な森の部落となるのです。皆様の子供達は親の植えた並木、屋敷林を楽しみ、どんなにか想い出を持ち、喜ぶ事でしょう。

こんな夢を見て居りますと一つの野心が湧いてくるではありませんか。今の子供達が住んで居る家、学校に行く道に立派な樹蔭が出来上ります。それが大きく喬く夫にそびえ、枝を張り緑の長いトンネルをつくりあげます。生長した子供は樹蔭に青春の夢を求め、心を緑で浄め、緑に想いを求め、之を作つた人々にどんなにか喜びと感謝を捧げる事でしょう。

さて、夢と現実を結びつけるには「一本でも多く、生きる様に」樹を植えて「千孫の為に美林」を築こうではありませんか

（仲田元一）

## 苗木の植えかた

（一）よい苗木とは？―苗木のえらびかた

よい苗木とは、発音がよくて植えつけに手頃な大きさのもので、根つきやすく、丈夫で、植えつけ後の成長がさかんなものであればいけません。そのためには、次のような条件を、そなへているのがよい苗木です。

1 幹は真直で太く、堅く、徒長せず、分岐せず、根もとの太いもの

苗木は、全体として均整のとれた形をしており、下枝が適